



# 日刊 労働安全衛生 千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番  
96.5.9 No. 4391

# 交 団 に 知 ら ず に 法 衛 安 労

## 問題整理出さぬうちに作業再開を言明 — 幕張有機溶剤問題団交 その3 —

【日刊4389より続く】

**何でもメーカーの責任に!**

組 運輸部としては、有機溶剤の危険性について法的なことは調査したのか。

当 有機溶剤規則は読んだ。作業の主幹として、法的にも危険業務だという認識はなかったのか。

当 具体的な点については、メーカーの指導を受けて、防護マスク等が必要だということ、用意した。そういう点については、メーカーがある程度ノウハウがあるのでまかせておいた。

組 労務対策ばかり優先させ、本来の業務や安全に対するチェック機能がまったく働かなくなっている。危険業務をやらせておいて、支社としてここがまずかったという点や責任の所在を明らかにするべきだ。

当 どこに責任の問題があるのかはありますが、メーカーに任せてありました。支社は、三月二十六日の団交の際に組合より指摘を受けてから、塗料の材質を調査し、有機溶剤だということとを判明したと言った。しかし、有機溶剤が危険業務だという認識をいつしたのか。そこから解

明しなければ議論が始まらない。

当 支社としては、今回の業務について、メーカーにいろいろな部分をまかせておいた。

組 なんでもメーカー、メーカーといつて責任を回避している。支社としての責任はないのか。支社としての責任はどこにあったのかはつきりさせるべきだ。

当 メーカーに頼っていて、支社としての認識が甘かった。支社としても現場へのフォロワーが足りなかったことは、申し訳ないと思う。

組 現場に問い合わせして有機溶剤を使用したことは、三月二十六日の団交以降判明していた。しかし、メーカーから安全衛生上の指導を受け、保護具等を使用して作業にあたり、と認識していた。

当 いい加減な言い訳はやめてもらいたい。現場の労働者がそんなことをやったら即ボイコットや処分が来る。当局がそんなにいい加減なことをやっていたのか! 現場で報告を受け、メーカーに問い合せたところ、安全衛生法上、有機溶剤の含有物が5%以上含まれていると、有機溶剤業務だと確認した。問題となるのは、下塗りに使っている「エポニックス」で

あるとのことであった。エポニックスを使用したのは、三月五日と四月一八日のみであるので「臨時作業」と理解し、問題ないと思っていた。支社の認識が甘かった。

### 作業主任者は「メーカー」?

組 労基所には、いついったのか? 労基所は、臨時作業についてどのような見解なのか。

当 (運輸部) 労基所には、本日は、半年に一回、有機溶剤健康診断が義務付けられている。であるので、臨時の業務については、半年であればという見解である。

組 (勤労課) 労基所によって、半年という見解もあれば、もっと短い数か月というところもある。(と言いなおす。)

組 組合から指摘があつてから一カ月以上たつて労基所に行くなどという対応自身に問題があると思わないのか? 現場には、必ず安全衛生管理者がいるはずである。安全衛生管理者が有機溶剤業務について知識がなければおかし。以前、自動車車検を行った時は、有機溶剤作業主任者の資格を取らせた。組合から指摘を受けた段階で、現場でどういう作業を行っているのか支社が

把握していないというのは、安全を無視する現在のJRの姿勢である。

当 配慮に欠けた。

組 有機溶剤：規則では、作業主任者が必要となってくる。そもそも作業主任者が必要だったという認識はあつたのか。

当 メーカーの人がいれば指導してもらえると認識していた。

組 メーカーは、事故が発生した場合責任を取ってくれない。規則では、作業主任者は、換気装置、保護具の着用状態等を監視・管理しなければならぬなどとなっている。メーカーの人がJRの社員の管理・監督ができる立場にある訳がないだろう!

### 労働安全衛生法上の規則さえ無視!

組 では、「有機溶剤の人体への影響・成分・異常時での対応の仕方」を有機溶剤業務を行っている作業員の見やすいところへと掲示しなければならぬ」と規則上定められているが、認識はあつたのか。

組 掲示の認識はなかつた。当 冗談ではない。有機溶剤中毒予防規則に定められている。団交に臨む際に、本間に法律を調査してきたのか。では、「有機溶剤の貯蔵場所、他の労働者から一切触れることのない場所に保管しなければならぬ」ということについては、どう思っているのか。当 ... 現場では、シンナー臭いと

「う声が出ていますが、エポニックスの他に、シンナーを使っている塗料はないのか。」

**当** レジフロアは、シンナーを混ぜて使用している。だが、シンナーの量は、5%未満を混ぜているので有機溶剤業務ではない。

**組** ではシンナーを混ぜる業務は、有機溶剤業務ではないのか。

**当** ……

## 舌の根も乾かぬうちに、「作業再開」を言明

**組** 現場では、助役が五月の連休に塗装業務を行うと、塗装作業班にピットの洗浄作業をやらしていた。組合と問題の整理も出来ないうちに再開しようというのは、どういうつもりなのか。

**当** 労基所で排気設備等を指摘されたので、整備され次第、作業を再開する。だが、連休中に塗装をやるつもりはない。なお、連休明け近日中には、作業班の健康診断を行なう予定である。

**組** 作業班と平行して交検作業をしている交検班については、同じ有機溶剤の蒸気を吸っている。交検班は、健康診断を行わないのか。

**当** 交検とは作業がラップしないと認識していた。

**組** 冗談ではない。行方助役が転勤して来たら、作業の遅れにクレームを付けて、とにかく早く作業を行えとして、機動班や転削班、果ては助役

まで動員し、作業を早く終わらせると息巻いている。

現場で行われていることを支社は把握していないのか。

**当** 健康診断については、規則では、六カ月に一回実施となっているので、作業に従事している人は、健康管理のために行う。実際、交検班でも「頭が痛い」「腕がしびれる」とかの症状を訴えている者もいる。

**当** 作業班のなかで、肩が痛い、腰が痛いという声が上がっているのは把握している。

**組** 塗装業務を再開するのは、不当である。作業班の中には、具合が悪いのでメンバーを入れ替えて欲しいという声も上がっている。

**当** メンバー交替は、待つてく

**組** 支社は作業班の中で、体の不調を訴えている者が何人いるのか把握しているのか。

**当** 腰が痛い。肩が痛いと言っている人がいるのは、把握しているが、何人かはつかんではない。

**組** 交検班でも具合が悪いと訴えている者は何人いるのか。

**当** 交検班もですか。

**組** 交検班についても、同じ場所での作業を強いられている。有機溶剤の危険にさらしておいて、何故健康診断を行わないのか。これじゃ交検作業に就けない。

## 危険業務への反省のかけらもない行方首席

**組** 四月二四日より塗装業務が中止となった。支社は、有機溶剤を使用しているなら問題があると思うので中断すると言っている。謝罪し、調査すると言ってきた。組合からは、①団交を早急に開催すること。②現場には、何故、塗装業務が中断したのか。有機溶剤を使用した危険業務に就かせたことについて、点呼等を通じて明らかにせよ。ということ

を要求した。

しかし、現場では、点呼の場で経過すら一言も触れず、点呼が終了した段階で、「何故塗装業務が中止されたのですか。」と区当局に聞くと、行方助役は、「誰から聞いたんだ。」「どこの組合から聞いたんだ。」と顔色をかえて迫ってきた。組合員が、昨日「支社も、組合に『申し訳なかつた』と言いにきたそうじゃないですか」と聞くと、「そんなことを言うはずがない。まだ危険だと決まった訳じゃない」と食ってかかっていた。

**当** 一部不適切な発言があったと聞いたんで、その辺は指導する。

## 労安法すら知らないで団交になるのか!

**組** 今日の団交では、塗装業務の責任体制すら明確にならない。有機溶剤の法的な最低条件すら勉強していないという支社の姿が明らかになった。

**当** しっかりと作業環境を作って塗装業務を再開したい。

**組** 支社は、労働安全衛生法第

**当** 有機溶剤規則は読んだが、

**組** 冗談ではない。労安法第一条は、この法律は最低限のものであり、事業者は、労働者の安全衛生をまもるために、さらに努力することを求めている。そんなことも知らずに団交に臨んでいるのか?再度この問題については、申を発出し、団交を要求する。

**当** 申し入れが出る以上、団交を開催する。

以上のとおり、千葉支社は、現場の労働者を危険業務にさらしておきながら、千葉支社の責任すらあいまいなまま、しかも労働安全衛生法も知らないという状況で団交に臨むというきわめて不誠実な態度である。

しかも、問題点もなら整理されないまま、作業再開を明らかにしている状況であり、断じて容認出来ない。

三号にわたり、団交報告をしたが、労務対策を全てに優先し、労働者の安全に関するチェック機能さえ失っているのが千葉支社、および現場の管理者の現状だ。われわれは、こうした不当な対応を断じて許すことなく、あらゆる手段を活用し、労働者の安全・生命を守るために闘わなければならない。